

## 仕事と家庭を両立している人の声

### 仕事と家庭の両立について

みはま病院 熊切 こず恵（千葉県臨床工学技士会 調査委員会）

私が、日本工学院専門学校の臨床工学科を卒業し、みはま病院に入職したのは今から約10年前になります。入職した頃は、自分が結婚することや子供を産むことについてはいつも人事にしか考えられませんでした。いつも考える事は、仕事を覚える事や仕事上で「こんなことをやってみたい」とか「こんな風になりたい」など、仕事に関する事ばかりでした。

そんな私が、「結婚と仕事」の選択に迫られる事になったのは、入職してから7年目位でした。約3年間付き合った彼（今の主人です）に「結婚」の話を持ち掛けられ、彼には「結婚したら仕事を辞めて家庭に入って欲しい」と言われました。それから、さんざん悩みましたが「仕事を辞める」とこと「結婚をやめる」とことのどちらかを選択する事は私にはできませんでした。結局、「仕事もしたいし、結婚もしたいし、子供も欲しい」との結論に至り、彼を説得し、その約1年後に結婚しました。

現在、結婚してから2年半位ですが、まだ子供はいません。家事の分担の割合は7：3位で私の方が明らかに少ないと思います。結婚前とは相反して、主人はとても家事に関心があり、台所の物の置く位置にはうるさく、また、二人とも新聞をチェックして関心のあるものを切り抜いてとっておくのですが、私はいつも「少子化対策」や「両立支援」に関するもので、主人は「料理のレシピ」を切り抜いてスクラップにしています。

こんな感じで、主人の多大なる協力のおかげで、仕事と家庭を両立(?)しています。ただ、まだ子供がおりませんので、「子供は欲しいけど、もし子供が出来たら仕事はどうなる?」という不安はいつも抱えています。

補足ですが、私は千葉県臨床工学技士会で「仕事と家庭の両立」の問題に取り組んでいますので、「仕事と家庭をこんなふうに両立しています」というお手本を示さなければいけない立場かもしれませんが、多くの方がそうであるように、現状では「仕事と家庭を両立すること」に対して不安を抱えています。こんな私ですが、「仕事と家庭の両立」で、悩んでいる人や困っている人に対して、「少しでもお役に立てれば...」と、日々考えながらこの問題に取り組んでいます。簡単に解決できる問題ではありませんが、出来る限り応援をしていきたいと思っておりますので「仕事と家庭の両立の問題」に関する要望・意見や相談など気軽に声をかけて下さい（相談窓口からメールが送信出来ます）。

### 仕事と家庭の両立について

浦安駅前クリニック 佐藤 景子

「仕事と家庭（家事）の両立できていますか?」と問われると私は、一般的な主婦に比べれば全然出来ていませんが、私一人では無理でも夫の協力があって何とかできているように思えます。お互いに仕事をしているので休日にまとめたり、平日早く帰宅した方が家事をしたり、という感じではありますが、夫の協力と理解がなくては家庭との両立は私には出来ないと思います。

女性は結婚や出産で生活環境が変わるとよく言われますが、実際私も大きく変化しました。結婚前に務めていた職場は24時間体制の総合病院だったため、残業や緊急の呼び出しも多く、病院の寮で生活していました。仕事もやりがいがあり、私一人で生活していくのには何の問題もありませんでしたし、社会人になってからはそれが当たり前の様に仕事をしてきたのですが、そこで働きながら結婚し家庭を持つというのは難しい環境だったと思います。当時付き合っていた夫と2年前に結婚し、それを機に退職。夫の千葉への転勤もあって専業主婦となりました。

こう言うと簡単に退職したのか?と思われるかもしれませんが、正直仕事を辞めていいのだろうか?再就職は出来るのだろうか?などという不安がなかったわけではありません。同級生が皆仕事をしている中で専業主婦をするということに大きな不安や焦りを感じたりもしました。

私も今では楽しく仕事をしていますが、仕事を続けながら結婚や出産をすることを考えるとやはり夫や家族の理解や協力は不可欠だし、家庭を持っても働きやすい職場であることが「仕事と家庭の両立」には必要なんだと思います。

仕事と家庭の両立 ~仕事と充実した生活のために~

## 東葛クリニック病院 稲田 昌代

私が臨床工学技士として仕事を始めた頃、当院の技士は男性が多く、女性の技士は年齢も若く、全体でも家庭を持っている技士も少なかったので、仕事をしながら子育てをすることなど考えられない時代でした。一緒に働いていた看護師さんは妊娠をすると産休終了と同時に退職していく方ばかりで、ある程度子供が大きくなると仕事をするのは難しいのかなと思っていたことを覚えています。

私は同じ職業の臨床工学技士と結婚しました。同業であるため、仕事の楽しさ、不安、疑問、つらさなど二人で解決できることが、仕事を続けてこられた理由だと思っています。もちろん、違う職業でもお互いがどれだけ大切に思いやることができるかで、女性も仕事を楽しく続けたいと思います。子供のことで休みたいけれどどうしても休めない場合など、男性だけでなく、女性にも仕事の都合があると思います。お互いにゆずりあい、家事や育児の協力をしていくことが必要だと思います。

私が始めて妊娠した時は、妊娠悪阻がひどく何週間か休ませてもらい、夜勤勤務免除というように勤務時間などにも配慮してもらい、とても感謝しています。当初、出産後は今までの看護師さんのように、私も産休終了と同時に退職を考えていましたが、上司から育児休暇の事を教えてもらい、「仕事を続ける」という選択肢があることに、気づかされました。

育児休暇は「育児・介護休業法」という法律で、「子が1歳に達するまでの間、育児休業することができる」と定められているものです。しかし育児休業することができても、子供が1歳になるときに預かってくれるところがないと復職できません。公立保育園では年度末になればなるほど、定員オーバーとなり受け入れができず、待機児童が増えているのが現状です。現在は「子が1歳6ヶ月に達するまでの間、育児休業することができる」ように法改正され、期間が増えた分、受け入れ可能な保育園を探すことができたり、年度初めから公立保育園に入れることができたりするので、少しずつ復職しやすい環境になってきていると思います。

復職後も以前と同じように勤務時間を配慮してもらい、日勤勤務だけの生活になっています。子供が病気の時や感染症の場合は長期にわたり休むことも多々あり、上司や職場の皆さんにはそのことでかなり迷惑をかけてしまいます。急な休みをもらうたびに「みんなに申し訳ない」と思う気持ちになります。そんな時、上司から「子育てをしているときは仕方ないし、順番だから・・・」「技士の代わりは他の人でもできるけど、子供のお母さんの代わりはいないから」とあたたかい言葉をかけてもらい、どんなに気持ちが楽になったかわかりません。病院や上司、一緒に働く技士の方にも恵まれたこと、支えてくれたみなさんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

そして今は、制約はあるものの勤務時間内は仕事に集中し、家庭では3人の母として子供の成長を見守り、そして何よりも自分が体調不良にならないように心がけています。